MIDORI KITAKYUSHU

みどり北九州

第49号
平成29年
4月1日発行

北九州緑化協会

発行所
一般社団法人 北九州緑化協会
〒805-0033 北九州市八幡東区山路松尾町14番2号
発行人/水野貞明　編集/広報委員会
TEL.093-654-1233　FAX.093-654-1231
e-mail：info@kita-ryokka.or.jp
ホームページアドレス：http://www.kita-ryokka.or.jp

ご挨拶
こちら公園緑地部　皿倉山リニューアル計画　旧安川邸利活用事業
環境と緑　平成28年度　公益活動報告
　第9回「都市と自然の共生」シンポジウム開催
　「到津の森公園」環境整備支援活動
　「協力雇用主制度」の説明会を開催
グッドニュース　青年樹木医の誕生
初めまして「○○」です
樹木医からの一言
平成28年度　協会活動報告
足立美術館視察研修
会員名簿
掲示板

「写真:勝山公園 -メタセコイア-」
撮影:編集部

ご挨拶

北九州市長
北橋　健治

水野会長をはじめ、一般社団法人北九州緑化協会の皆様におかれましては、日頃より、本市の公園緑地の維持・管理に多大なご尽力をいただいており、厚くお礼申し上げます。

また、「到津の森公園での園内整備」、「『都市と自然の共生』シンポジウムの開催」、「都市緑化祭でのイベント実施」など、環境緑化の推進にもお力添えいただいており、重ねてお礼を申し上げます。

昨年、北九州市は、国家戦略特区への指定、「G7北九州エネルギー大臣会合」や「世界獣医師会ー世界医師会〝One Health〟に関する国際会議」の開催、中国や韓国への国際定期便の就航に加え、年末にはユネスコ無形文化遺産に戸畑祇園大山笠行事が登録されるなど、今後の飛躍に向けて大きな一歩を踏み出した一年でした。

今年は、ものづくり、環境といった本市の強みを伸ばし、地域経済を活性化させるとともに、全国的にも高い評価を受けている「暮らしやすさ」という本市のポテンシャルを活かしたまちづくりを進めていきます。

産業面では、介護ロボット等を活用した先進的介護の実証や響灘での洋上風力発電の拠点化等に取り組み、「ものづくり・環境のまち」の進化を図ります。

また、昨年開設したウーマンワークカフェ北九州やシニア・ハローワーク戸畑を中心に、女性やアクティブシニアへの就業支援を行うとともに、市内就職者への奨学金返済支援制度の創設など、若者の地元就職への支援を充実します。

さらに、観光やにぎわいの面では、小倉城周辺一帯の魅力向上など観光・文化の名所づくりを目指すとともに、3月にオープンした「ミクニワールドスタジアム北九州」を中核として、まちのにぎわいを創出し、スポーツを通じて本市の魅力を広く発信していきます。

今後とも、にぎわいが溢れ、あらゆる世代が活躍し、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めてまいりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人北九州緑化協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念します。

一般社団法人 北九州緑化協会
会長
水野　貞明

新年度を迎えるにあたり、ご挨拶を申し述べます。

お蔭様で昨年も、さまざまな活動を展開することが出来ました。公益活動として各種講演会や技術研修会の開催、到津の森公園での環境整備ボランティア活動等々。

特に昨年の11月4日に開催した第9回「都市と自然の共生」シンポジウムは、講師の（公財）日本自然保護協会の亀山章理事長から「グリーンインフラと都市の生物多様性」について、北九州エアターミナル㈱の片山憲一代表取締役社長には「人口減少社会と持続可能都市～都市北九州の希望～」と題して、ご講演いただきました。また、奥田建設局公園緑地部長には北九州市が目指している「世界の環境首都」を踏まえて生物多様性保全の観点から、本市の事例を交えたご報告をしていただきました。このシンポジウムが、北九州市において「自然環境保全」や「生物多様性確保」の重要性について市民の理解の一助となれば幸いです。

さて、我が国は、かつて経験したことのない社会に移行しつつあります。急激な少子高齢化の進行と人口減少、火山噴火や大地震の発生など自然災害リスクの高まり、ゲリラ豪雨や頻繁な台風の上陸など気候変動に伴う地球環境問題の深刻化、グローバル化による世界的な都市間競争等々です。こうした社会的課題や環境問題の解決に対して、「グリーンインフラ」が、新しい社会資本整備の考え方としてクローズアップされています。これは、自然環境が有する防災・減災、気候緩和、健康増進など多様な機能を活用することによって、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを推進することです。

私共は、日頃から「自然」や「緑」との関わりの深い業種でありますから、地域の特徴を十分に生かす知恵や技術力を高めることによって、この分野において、将来に向かっての社会的役割を見出すことが出来るのではないかと思っています。

本年度も、美しい北九州市の都市景観の実現や潤いのある生活空間をめざす「都市緑化の推進」や、環境に関わる「都市と自然の共生」をテーマに、専業者であるとの意識のもと、より一層の展開をしてまいります。

また新たな施工技術の向上、伝統的造園技術の継承・発展や経営の合理化に向けた取組みも一層強化したいと考えております。

伝統的造園技術に関しては北九州市より、戸畑区の旧安川邸の作庭事業において技術研鑽の機会を与えられるのではないかと思っています。

皆様方のより一層の御指導・御支援をお願い申し上げますとともに、ますますの御発展を心からお祈り致します。

こちら公園緑地部

北九州市の公園事業として、本市の地域資源を活かした特徴的な取組みをご紹介します。

皿倉山リニューアル計画

皿倉山は、市街地に近接して豊かな自然に恵まれ、山頂からの大パノラマは北九州の市街地を一望できる絶景であり、100億ドルの夜景と称されるなど、本市の重要な観光拠点の一つです。

皿倉山展望デッキ（イメージ）

眺望や山歩きを楽しむ中高年を中心に、市内外から年間約40万人もの人が訪れていますが、眺望以外に楽しめる施設が少ない、子どもや若者が遊べる施設がない、駐車場が足りない、などの声があり山頂周辺施設の充実や回遊性の向上、アクセス対策が課題となっていました。

また、官営八幡製鐵所関連施設の世界遺産登録をうけ、皿倉山の観光ポテンシャルはさらに高まっており、皿倉山を市民のみならず観光客も周遊できる、本市のシンボルとなる山として、更なる魅力づくりを進めることを目的とし、平成28年5月に皿倉山リニューアル計画を策定しました。

皿倉山リニューアル計画では、まず皿倉山の魅力の原点である、眺望や山歩きをより一層多くの方に楽しんでもらうため、展望デッキの整備、サクラ・モミジの名所づくり、ウォーキングコースの拡充などの事業を盛り込み、絶景や豊かな自然とふれあえるような空間づくりを推進することとしています。

また、これまで利用が比較的少なかった若者やファミリー層を対象にした、絶景を眺めながら遊べる草ソリや大型遊具、恋人の聖地サテライトに認定された天空ドームの改修などの事業も盛り込み、アクティブで記念になる体験ができるような空間づくりにも取組んでいきたいと考えています。

今年度は、利用者から要望が高い、山麓駅周辺の駐車場整備に着手する予定であり、皿倉山が更に幅広い世代から愛され、多くの方に訪れていただくよう事業を進めていきたいと考えています。

帆柱公園山麓駅駐車場（イメージ）

旧安川邸利活用事業

旧安川邸は、戸畑区一枝の旧松本家住宅（西日本工業倶楽部会館）の隣接地にあり、㈱安川電機の創業発起人である安川敬一郎氏らの旧邸宅です。現在、㈱安川電機が所有しているものの、未活用となっているため、北九州市と㈱安川電機が共同で新たな観光拠点として整備・活用するものです。

旧安川邸は、若松にあった明治29年当時に、官営八幡製鐵所の誘致に向けた初会合が開かれたほか、明治45年、戸畑区一枝の現地に移築された後も中国辛亥革命の指導者である孫文が訪れ、親交を深めるなど、歴史の舞台となった邸宅です。

建物は、明治から昭和にかけて順次改築され、炭鉱で財をなした筑豊御三家の生活やわが国の工業発展の一翼を担った、近代企業家の足跡と住宅建築の変遷をたどることができる建築遺構としての価値が高いものです。

整備にあたっては、約1.3haの敷地を㈱安川電機から無償で借り受け、夜宮公園の一部として編入し、建物などは無償譲渡を受け、当時の趣を極力残しながら、耐震補強など、利活用に必要な改修工事を行う予定です。

庭園部分については、石組や灯篭など当時のものが残されており、これらの復元を基本にしながら、本市随一の本格的な日本庭園として新たな魅力を加え整備していく予定です。

総事業費は約6億円（展示施設を除く）で、国の地方創生拠点整備交付金や㈱安川電機からの寄付金を活用して、邸宅内に孫文や安川家を紹介するギャラリー、民間事業者が運営する飲食スペースなどを整備し、平成31年度のオープンを予定しています。

旧安川邸の整備によって、孫文ゆかりの地として、中国からのインバウンド誘致や隣接する旧松本家住宅と合わせ、新たな観光の目玉になることを期待しています。

（記：建設局公園緑地部）

※情報誌「財界九州」用イメージ図

公益活動報告（平成28年4月～平成29年3月）

第9回「都市と自然の共生」シンポジウム開催

平成28年11月4日、北九州国際会議場において、シンポジウムを開催しました。

第9回目となる今回は、（公財）日本自然保護協会の亀山章理事長、北九州エアターミナル㈱の片山憲一代表取締役社長、のお二方を講師としてお迎えし、基調講演をいただきました。

その後、北九州市建設局公園緑地部長である奥田尚弘氏より現地報告をいただき、最後に北九州市保健福祉局の東田倫子課長をコーディネーターとして意見交換会を行いました。

基調講演①
亀山章氏「グリーンインフラと都市の生物多様性」

都市の三重苦「人口減少・少子高齢化・財政難」という現状の中で、グリーンインフラと生物多様性を視点に、都市整備の課題解決を考える。

①土地利用調整基本計画
・用途地域の指定のない区域の事例だが、防災・減災を土地利用計画の大前提とする。

②公共施設のライフサイクルアセスメント
・公共施設の寿命と長期的にみた維持管理負担の増大を踏まえ、道路・河川・公園他の計画と現況の見直し、オープンスペースを創出しエコロジカルネットワークを形成する。

③民有緑地の活用と里山の保全
・企業は多くの土地を所有しているが、緑地資産として考えられていない。それには市民や行政からの働きかけが必要。里山同様の価値を見出し活用する例として、ゴルフ場を挙げた。森林と芝生地からなるゴルフ場の広大な緑地には、高次生産者である猛禽類も生息でき、生態系ピラミッドが成立する。絶滅危惧種に指定されている動植物も多く確認されており、ゴルフ場が生きものの里山としてもたらす生態系サービスは甚大である。

亀山　章氏

④都市緑化と生物多様性保全
・環境ポテンシャル（ある場所で森林や生態系が成立できる環境の可能性）を高めることのできる近年の緑化工法及び成功例の紹介があった。

亀山氏は、笑顔と親近感の湧く事例で、難しい問題をわかりやすくお話しくださいました。

基調講演②
片山憲一氏「人口減少社会と持続可能都市～都市北九州の希望～」

これからの北九州市を考えるには、まず今日までの北九州市の歴史を知ることを説かれた。

北九州市は明治時代に地の利（大陸と筑豊炭田に近く、九州の玄関で地震が少ない）を得て急速に都市化が進む。第二次世界大戦により、街は焦土と化し、地の利が消滅した。戦後復興期に5市合併し、高度成長の波に乗り北九州工業地帯が復活するが、経済優先で生活環境の悪化が進行。厳しい基準の公害防止条例を制定し、公害を克服する。ここで北九州市を特色づける環境産業という概念が萌芽する。

一方航空機がジェット化時代に入り福岡空港が優位となり、交通結節から通過都市へとなった。

だがここで、既存の思い込みを疑う視点を持ち、マイナス思考からプラス思考に変えたい！

・工業都市で発展してきた北九州には、活用されていないストックが数多く存在する。人口減も、生活環境の改善を促進する効果がある。
・経営する視点でストックを再評価し活用すれば、効率的に地域経済を活性化できる。
・自然を含めたストックが多い北九州市は、豊かなライフスタイルを実現できる魅力がある。価値を生む街づくりに取組み、マルチハビテーション化（都市生活者の地方への定住の促進）で優秀な人材を呼び込む。
・生産性の低い非製造業分野の従事者が85％と多い北九州市では、その生産性を政令市平均まで上げれば労働力が生まれ、ビジネスチャンスと伸び代という、明るい未来が見えている。

片山憲一氏

発想の転換。プラス思考。片山氏から出てくる言葉は終始前向きで斬新で、まさに目からウロコでした。

現地報告
奥田尚弘氏「現地からの報告～新たなステージに向けた北九州市の取り組み～」

本市の課題は①コンパクトシティ②国際競争力強化③地方創生。また、国の都市公園政策上の観点は①ストック効果を高める②民間との連携を加速する③都市公園を一層柔軟に使いこなす。これらの指針の元、北九州市の新たなステージに資する公園整備の取り組みを次のように打ち出した。

(1)コンパクトシティ形成に資する公園施設の再編

奥田尚弘氏

環境と緑　平成28年度

・少なくとも「今後40年間で保有量を約20%削減」を目指す。

(2)公園ストックの活用による地域コミュニティの活性化

・地域ニーズに対応した公園の再整備として、現在180公園が整備済みである。

・既存公園の統廃合。

(3)都市の活力を高める公園整備

・インバウンドの増進。

・都市ブランドを高める。

・都市の賑わいを高める。

(4)民間活力導入による公園ストックの活用

・平成29年度から勝山公園の指定管理者制度を実施する。

(5)地域との合意に基づく弾力的な公園運営

・公園の一部を花壇や菜園、植樹用の苗木の育成の場として活用。

意見交換会

「日本庭園に着目して、海外の観光客を北九州市に呼ぶことはできないだろうか?」をテーマに次のような意見が交わされました。

「自然の風景をそのまま取り込む庭は日本にしかなく、海外の方にとても人気がある。名園を持つことは都市として〈売り〉になる。」

「八坂神社の鳥居付近で小倉城をバックに記念写真を撮っている外国人観光客がたくさんいる。維持管理の問題はあるが、もっと力を入れてもいいのでは」これに対し奥田公園緑地部長より、「小倉城一帯を今後リニューアルするので、貴重な意見として考えていきます」との回答をいただきました。

東田倫子氏

他に「若松の洞海湾に面した藤ノ木辺りの白砂青松は素晴らしかったのでぜひ復元してほしい」「広場も必要だが、大きな木もぜひ欲しい。車でちょっと出かけてでも、緑の中で遊ぶことの良さも勧めていきたい」「北九州市は力のある都市だが、知名度が上がらない。『製鉄のまち』から『コンパクトで整備された、生物がたくさんいる都市』へ。インパクトのある〈売り〉になるのでは」などの意見もでました。

今回のシンポジウムでは、見落としてしまっている北九州市の都市としての魅力を、視点を変えて再発見し、新たな価値を付加して打ち出すこと。また、北九州の土地を生かした、独自の自然生態系の創出の重要性を考えるよい機会となりました。

意見交換会

「到津の森公園」環境整備支援活動

到津の森公園内に広がる森は、スダジイ、ヤブツバキ、クス、タブなど西日本一帯に見られる典型的な照葉樹林で80年以上前から気軽に市民が近づける場所となっています。

その森において、「里山」を維持管理するように折れ枝撤去や除草などの環境整備を、ボランティア活動として平成29年2月21日に実施しました。

今回で9回目ですが、造園専業者として手際の良い作業で、森が清々しくなりました。

「協力雇用主制度」の説明会を開催

造園業界の人材確保策の一つとして、また「犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける」社会貢献活動として「協力雇用主制度」の説明会を会員15社が参加し平成29年1月25日に開催しました。法務省福岡保護観察所北九州支部の梅木正吾統括保護観察官から「立ち直り」のためには、「居場所」(住むところ)と「出番」(働くところ)が必要との説明がありました。また会員で、すでに活動されている総合緑地建設㈱の小緑彰社長からは、経験を踏まえた人材確保の視点から、雇用までの手順、受け入れ側の社内対応や本人の見守りなど貴重なお話が聞けました。当日、早くも「協力雇用主」として登録を希望する企業もありました。

梅木統括保護観察官

小緑社長

青年樹木医の誕生

平成28年度、福岡県で樹木医に合格した5名のうち2名は、菅原造園建設㈱ 菅原猛氏、㈱水野文化園 水野晴之氏で、当協会会員です。お二人に聞いてみました。

「樹木医を目指した理由は？」

（菅原氏）造園の職能の中で、「植物を扱うこと」は最も重要な要素だと考えています。その正しい知識の習得のために、樹木医資格の取得を目指しました。

（水野氏）樹木・樹林は日常業務で関わってはいるが、知識・理解が不十分だったので、見識をより深めたいと思いました。加えて、他の樹木医の方から、「つくば市」での樹木医研修の内容がとても良かったと聞いていたことです。

「何に重点を置いて勉強しましたか」

（菅原氏）当協会で開催された資格取得のための講習会でいただいた資料を基本にして勉強しました。この講習会がきっかけとなり、強く背中を押されました。

（水野氏）選択式試験対策については、「樹木医研修受講者選抜試験問題集（平成23～27年度）」を使いました。論述式試験は過去問に目を通したぐらいです。ただ論文を書き慣れていない方は、記述のトレーニングをした方が良いかもしれません。

「今後、どんな役割を果たしたいですか」

（菅原氏）樹木医研修を受け、樹木の構造や生理は人間とは、まったく違うことを改めて認識したと同時に、都市部で暮らす人間であることを強く実感しました。今後は、人間活動の盛んな都市部の中で樹木と共生する、そのための知識・技術を磨いて、都市緑化の質をより高めていくための手助けができれば、と思っています。

（水野氏）公共空間における樹木について、そのリスクマネジメントを担う専門家として今後も知識・経験を高め、一般の方にも分かりやすく説明できるコミュニケーション能力も身に付けたいと思います。

また、造園施工管理技術について指導をする際に、特に植樹工の品質管理において樹木医の視点を取り入れた指導を行いたいと考えています。

初めまして「〇〇」です

（市職員の横顔）

建設局公園緑地部
みどり・公園整備課
山本　彩さん

建設局公園緑地部みどり・公園整備課の山本彩です。

生まれは八幡、高校までは小倉で育ちました。大学生活を沖縄と鳥取でおくったため、少々の暑さ寒さには動じません。

幼少時に宮崎駿監督の「天空の城ラピュタ」を観て樹木の魅力にとりつかれ、沖縄時代はマングローブの研究をして、個人的にマダガスカルにバオバブを見に行きました。鳥取時代はブラジルの乾燥地樹木の研究や、アフリカの干ばつ対策の研究をして、現在とはずいぶん違った分野に身をおいていましたが、縁あって北九州市に戻ってきました。

北九州を離れていた十年間、沖縄の目も眩む青い空と海、鳥取の秋に燃えるように赤くなる山々、エジプトのどこまでもつづく黄色い砂漠、キリンが悠然と闊歩する緑のサバンナと、様々な場所を訪れ、それぞれの地で魅力ある風景に出会いました。

各地の魅力を体験して戻った北九州で思う『北九州の魅力ある風景』は、なんといっても産業と自然、海から山が一つのフレームに納まること。皿倉山から見下ろせば、工場群越しに若戸大橋の赤と響灘の青、平尾台からは黄金に色づく田園のはるか先に煙突から立ち上る白、近代的な姿と、牧歌的な姿がうまく融合した、カラフルでユニークなところが、他にはない北九州の魅力です。

その魅力あふれる北九州の風景づくりに、市の職員として携わることができることに喜びと誇りを感じながら、日々仕事に取り組んでいます。実は入職してすでに六年になるのですが、産休育休で半分ほど仕事から離れていたため、戦力としてはまだまだ駆け出し。仕事に喜びと誇りを感じつつも、北九州の魅力あふれる風景づくりにまだほんの少ししか貢献できていません。それでも、子どもができて、彼らにもっと魅力ある北九州を見せたいという新たな気持ちもできました。これから、もっと勉強と努力を重ね、色々な方に教えを請いながら、魅力あふれる北九州の風景をつくっていきたいです。

写真は現在修繕工事で休館中の市立美術館。美術館前のマリリン・モンローの唇をイメージした芝生広場を再整備。

バイオマスについて

バイオマスとは、生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼ぶ。

バイオマスエネルギーには、昨今ではサトウキビ等から作られるバイオエタノールが話題になっているが、古くからの薪炭材の熱利用や、建築廃材や糞・し尿などの木質系・家畜系廃棄物の発電利用などもそのひとつである。

バイオマスエネルギーの導入には、いくつかの疑問点が投げかけられている。

①生産と輸送の過程で使用する化石燃料の投入が、バイオマスエネルギーを使用することによって削減される化石燃料の量を上回っているのではないか。

②森林伐採によって原料である穀物生産用の農地を拡大することは、伐採された森林や土壌からのCO_2排出を促すだけでなく、生態系の破壊や生物多様性の減少といった環境への悪影響があるのではないか。

③原料として穀物を多用することにより、食用への供給が減少し、食料価格が上昇するのではないか。

植物の種類や製法、輸送距離を十分に考慮しないと温暖化対策として効果は薄いものとなる。これらは地産地消で緩和することができる。

かつて農地として利用されていたが、現在は利用されていない土地(休耕地、放棄農地)が世界には多く存在します。このような土地の利用は森林破壊を伴わないため、環境への影響も小さく、食用への供給が減少することは避けることができる。

また、世界には熱帯地方の発展途上国を中心に移動耕作(焼き畑)という農業が営まれている。これを定置耕作に移行することにより、農地面積が増加することも考えられる。

平成28年度　協会活動報告

〈平成28年〉

5月21日　親睦グラウンドゴルフ大会を合馬竹林公園で会員企業からの参加者38名で開催した。（事業委員会）

6月15日　定時総会を響灘緑地研修館で開催した。平成27年度決算及び平成28年度予算が承認された。欠員した八幡南支部から㈲サン緑化の松尾和義氏が役員に選出された。（総務財政委員会）

6月16日～17日　希望者を募り足立美術館庭園（島根県安来市）において伝統的造園技術習得の現地視察研修を行った。（技術委員会・青年部）

11月4日　第9回「都市と自然の共生シンポジウム」を北九州国際会議場で（公財）日本自然保護協会亀山章理事長、北九州エアーターミナル㈱代表取締役片山憲一社長ほかを講師に迎え開催した。行政21名、市民等25名を含む77名が参加した。（総務財政委員会）

3月15日　「刈払機取扱作業の安全衛生教育」を響灘緑地研修館で重機メーカー教習機関の講師により開催した。会員企業の社員など29名が受講した。（技術委員会）

〈年間〉

合馬地区の孟宗竹を主に活用した「目串づくり」を今年度も行った。青年部が竹の切り出し・加工を行い、障害者施設が目串に加工し資材業者にて販売する事業は順調に進んでいる。（青年部）

前年度から引き続いて樹木医受験対策講習会を17回開催した。（技術委員会・青年部）

広報紙「みどり北九州49号」の編集作業及び協会ホームページの更新作業を行った。（広報委員会）

そのほか北九州市が主催する「第21回花と緑のまちづくりコンクール事業」（建設局）、「エコライフステージ2016事業」（環境局）へ協賛した。

〈平成29年〉

1月20日　「新春みどりの集い」をステーションホテル小倉で今永博北九州市副市長、横矢順二建設局長ほかの来賓を迎え参加者91名で開催した。（総務財政委員会）

1月25日　「協力雇用主制度の説明会」を協会会館で開催した。会員企業15社及び北九州市青少年課から2名が参加した。（総務財政委員会）

2月21日　「到津の森公園」環境整備支援活動（枯損木撤去、除草など）を会員企業から41名が参加して行った。（事業委員会）

グラウンドゴルフ大会

新春みどりの集い

定時総会 表彰式
（業績表彰　岡野政勝氏）

定時総会

足立美術館視察研修

去る平成28年6月、当協会の会員総勢18名にて、島根県の足立美術館へ視察研修に伺いました。ここ足立美術館の庭園は、米国の日本庭園専門誌が行うランキングで13年連続の一位を取り、国内外から多くの注目を集めています。

庭園にはパノラマの白砂青松が広がり、壮大な絵画のようです。日本で人気のある日本庭園の多くと、この庭園には異なる部分があり、「美術品として鑑賞するという視点」「ガラス越しに眺める鑑賞方法」「無宗教性」などの点が挙げられます。それぞれにメリット、デメリットはあるでしょうが、観光客、特に外国人観光客には鑑賞しやすい点が多いのではないでしょうか。

そして白色の砂や、樹木だけでなくコケや芝の健全な緑。その美しさの背後に「徹底した維持管理」があることも見てとれます。芝の縁取りや刈込まれた低木と合わせ、色・形のメリハリが庭園の美しさを際立たせています。

人気があること。そこにはしっかりとした理由がありました。明確な信念を持つこと、またそれを根気強く丁寧に表現すること。久々に背筋の伸びるような思いです。

一般社団法人 北九州緑化協会　会員名簿

（平成 29 年 3 月 9 日現在）

支部	商　号	所　在　地	TEL･FAX
門司	九州環境土木(株)	800-0112 門司区大字畑 46	481-3484 481-3483
	(有)西新緑地建設	800-0114 〃　吉志 5-12-10	481-5467 481-5476
	(有)豊西緑地開発	801-0823 〃　春日町 25-24	341-3456 342-1111
	(有)松本造園建設	801-0811 〃　大字大積 666-8	341-1501 341-1502
	(株)水野文化園	800-0112 〃　大字畑 46	481-4600 481-4680
	(株)門司造園	800-0101 〃　大字伊川 504-9	481-2918 481-2630
	(有)門司緑地土木	800-0101 〃　大字伊川 504-1	481-1897 481-1993
小倉北	(株)青葉造園	802-0023 小倉北区下富野 5-1-3	522-0234 533-7922
	(有)アートグリーン	802-0033 〃　富野台 11-8	533-3735 452-1340
	朝日工産(株)	803-0853 〃　高尾 1-38-5	592-4910 592-4261
	内山緑地建設(株)北九州支店	803-0841 〃　清水 1-12-15	581-2741 571-5392
	(株)梅田造園土木	803-0861 〃　篠崎 3-22-5	592-0516 592-0520
	岡﨑建工(株)	803-0846 〃　下到津 5-9-22	581-4327 581-4632
	北九州東部緑地管理(株)	803-0814 〃　大手町 5-23	591-1487 591-1489
	(株)九州造園	802-0026 〃　大畠 2-10-1	531-6121 531-6123
	(株)九州緑化産業北九州支店	803-0856 〃　弁天町 5-8	561-9027 561-9208
	(株)西日本緑化	803-0836 〃　中井 3-3-15-107	581-4128 561-5476
	(有)緑地管理中山工房	803-0835 〃　井堀 5-3-3-202	653-4152 613-0447
小倉南	青葉緑地建設(株)	802-0826 小倉南区横代南町 3-12-15	962-6175 962-6904
	(株)環境造園	800-0207 〃　沼緑町 1-19-15	471-6390 472-4070
	(有)協同造園土木	800-0207 〃　沼緑町 1-8-75	473-1509 473-3911
	(有)グリーンカンパニー	800-0228 〃　長野 1-8-22	474-5677 474-5733
	小倉造園(株)	802-0821 〃　横代北町 5-22-36	962-1136 962-1046
	(有)小倉南緑地	802-0979 〃　徳力新町 1-15-23	963-0769 961-5649
	総合緑地建設(株)	803-0261 〃　大字合馬 301	453-1678 453-1677
	(有)千代丸造園	800-0208 〃　沼本町 2-9-22	474-5400 474-5401
	(有)林造園	803-0261 〃　大字合馬 981	451-1876 451-1819
	(有)日浦緑地建設	800-0201 〃　上吉田 5-18-14	473-5296 473-5256
	豊州造園建設(株)	800-0242 〃　津田 5-9-24	473-6967 473-8084
	(株)みらい	800-0222 〃　中曽根 3-7-32	472-5999 472-4999
	(株)守恒造園建設	802-0986 〃　志井鷹羽台 4-3	962-4211 962-4272
	山本興業(有)	803-0261 〃　大字合馬 234-1	451-2312 451-2312
東戸	(株)グリーンニッポ	805-0017 八幡東区山王 3-14-28	662-3201 671-1423
	菅原造園建設(株)	804-0094 戸畑区天神 2-2-21	883-1120 883-1121
	眞矢造園	804-0032 〃　西大谷 1-5-7	881-0711 881-0770

支部	商　号	所　在　地	TEL･FAX
八幡南	(有)岡野造園土木	807-0845 八幡西区永犬丸南町 2-13-38	613-3804 611-2952
	(有)河村造園	807-1153 〃　岩崎 4-1-34	618-7170 618-7515
	(株)後藤緑化建設	807-1143 〃　楠橋南 2-11-19	618-5384 618-6707
	(有)サン緑化	807-1114 〃　吉祥寺町 7-40	618-1567 618-4684
	(有)田代造園	807-1262 〃　野面 740-1	617-1792 617-4518
	東洋緑地(株)	807-0854 〃　泉ケ浦 2-22-41	883-8972 883-8855
	(株)中川碧水造園	807-1125 〃　池田 2-1-3	618-0822 618-6101
	平方晴宏園	807-0075 〃　下上津役 3-20-24	612-5677 612-5701
八幡北	(有)医生ケ丘産業	807-0803 〃　千代ケ崎 3-1-6	601-8688 601-5338
	(株)折園	807-0863 〃　大膳 1-14-22	601-1528 691-3063
	(株)九州緑化建設	806-0055 〃　幸神 4-4-3	642-1267 641-0859
	古賀造園	807-0806 〃　御開 3-1-5	601-0495 601-9574
	(有)清水造園	806-0047 〃　鷹の巣 2-6-30	631-0694 631-0703
	(有)千成造園土木	807-0875 〃　浅川台 1-8-1	603-8050 603-8071
	(有)寺門六香園	806-0046 〃　森下町 17-1	641-2094 641-2097
	(有)古門造園	806-0011 〃　紅梅 4-6-5	622-4087 622-4088
	(有)山代造園土木	807-0852 〃　永犬丸西町 2-1-10	693-9718 693-9706
	(有)渡辺造園	807-0826 〃　丸尾町 11-3	602-8336 602-8362
若松	遠藤土木(株)	808-0142 若松区青葉台南 2-4-14	742-0331 742-0332
	(株)オーエヌグループ	808-0121 〃　大字竹並 3037	741-0648 742-0370
	岡崎造園(有)	808-0001 〃　小石本村町 2-1	771-9255 771-8580
	荻迫緑化	808-0146 〃　高須西 2-6-17	741-6816 741-6819
	(有)三司緑化建設	808-0106 〃　片山 1-2-33	701-1565 791-7955
	(株)三宮造園土木	808-0104 〃　畠田 3-4-12	701-0422 791-9223
	(有)洞北緑地建設	808-0133 〃　大鳥居 14-2	741-1820 741-1848
	日本緑営(株)	808-0104 〃　大字畠田 943-1	791-0440 791-0441
	(有)平和造園	808-0001 〃　小石本村町 1405-2	761-2298 330-4085

賛助会員

商　号	所　在　地	TEL･FAX
(株)成光社	803-0853 小倉北区高尾 2-5-33	561-1821 561-1820
総合園材(株)	802-0804 小倉北区若富士町 7-6(北九州事務所)	951-8850 951-8880
日本乾溜工業(株)北九州本社営業部	806-0046 八幡西区森下町 27-36	631-0237 622-2357

緑について気軽にご相談ください。

一般社団法人北九州緑化協会

TEL:093-654-1233

掲示板

本誌「みどり北九州」第 49 号を作成しました。本誌は当協会活動や北九州市の緑化事業に関する情報発信を目的としています。また当協会ホームページを開設しており、「北九州緑化協会」で検索して頂くとご覧になられます。

こちらのサイトでも活動内容や「みどり北九州」のバックナンバーなどもご覧になれますので是非、お気に入りに加えてください。

（広報委員会より）

青年部では、各社の代表となる方や主力となる若手社員の方を中心に活動しております。新しい方のご参加をいつでも募集しております。

（青年部より）

編集後記

あらゆる情報が瞬時に得られる昨今ですが、この紙の媒体を手に取り、じっくり読み、ゆっくり考える時をもっていただけたなら幸いです。広報委員会はホームページではタイムリーな情報を提供しています。年一回の広報誌と随時更新のＨＰ、どちらもお役立ていただければ有り難いです。P.S.色々な情報をお知らせ下さい。お待ちしています。(H)

印刷・製本：株式会社マツモト